



映画「スウィングガールズ」は日本の映画でジャズを取り扱った作品です。ひょんなことから、ある田舎町にいる女子高校生達がジャズに出会い、ジャズバンドを通じて人として成長していく様が描かれています。この物語は初心者の女子高生達が一生懸命に練習し続け、最後は演奏で聴衆を圧倒する所が醍醐味です。そこで映画の中で出てくるあるトランペットの女の子がとっても印象的でした。この女の子はどう頑張ってもある高い音が出せませんでした。そんなある日、河原でいつものように練習している時、突然トランペットの穴からネズミが出てきました。それにびっくりした女の子はそのあまりの驚きと共に、トランペットを空に向かって吹きました。その空に向かって吹いた音が、彼女がずっと出したかった高い音だったのです。それ以来彼女はネズミのヌイグルミをトランペットに付けて演奏するようになりました。そしてずっと克服する事の出来なかった音を出す事が出来る様になったのです。

私達の人生の中で、人に寄り添えない時があります。その時に出る音は不協和音です。調和や平和を奏でたいと願っていても、大きく相手と考えがズレたり、相手の自己中心に振り回される時、私達の口から出る言葉は怒りや悲しみ、そして時には憎しみの言葉です。イエス様の言う「あなたに一ミليون行けと強いるような者とは、いっしょに二ミليون行きなさい。」(マタ5:41)と言う言葉は私達が出せない高い音です。そんな葛藤や戦いの中で、イエス様は突如ひょっこりと出てきて私達に「わっ！！」と叫ぶ時があります。その時イエス様は私達に語りかけて下さいます「ずっとあなたと一緒にいたよ」と。私達の生活の中で不安、怒り、悲しみは避けきる事が出来ません。ここで大事な事は今誰に捉えられているかと言う事です。今日

礼拝から私達が学んだことは私達の信仰はイエス様によって引き上げられ、十字架の血潮によって全ての悩み、重荷から解放されたという事です。私達の人生は主の御手の内にあるのです。

つまり私達は囚われているものからの解放をイエスの御名によって宣言し、深い聖霊体験をしなければならないということです。その時イエス様の力が私達の内に流れ、人に仕える喜び、隣人に対する感謝、そして主を礼拝する者へと変えられて行きます。私達は思いがけない出来事に遭遇し、心がふさぎ込んでしまう時があります。しかし聖霊様は弱い私達を助け、主を見上げる事が出来るように何時も隣にいて励まして下さるのです。その体験が私達の隣人を励ます力、寄り添う力になっていくのです。私達は何も持っていないなくても、そして無力だとしても主の御前に立つことが赦されています。共に主を讃美し前進してまいりましょう。

